Bulletin of Aichi Univ. of Education, 62（Educational Sciences）, pp. 175 − 182, March, 2013

学級通信分析で学ぶ学級経営
―教職大学院におけるゼミの試み―

鈴木 健二

教職実践講座

Learning Class Manegement by Analyzing Class Newspaper

Kenji SUZUKI

Graduate School of Practitioners in Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

1 問題意識

次に示すのは、ある大学院生の教職大学院進学の理由である。

「私は学級経営についてもっと学びを深めたいと思い大学院に入りましたが、4月の時、私は学級経営を学びたいという思いを持っていても学級経営とは何をすることなのか漠然としたイメージしか持てていませんでした」

この学生は、本学を卒業して教職大学院に進学したのだが、学部時代に「学級経営とは何をすることなのか漠然としたイメージしか持てていなかった」のである。学部を卒業した時点で教員になっていたとしたら、学級経営とは何かがわからないまま教壇に立っていたわけである。

2012年度のゼミに参加している学生は5名であるが、学部の時に、学級経営について具体的に学んだ者は、一人もいない。教育実習等で配置された学級の様子を何となく感じた程度である。学級経営が、教師にとって重要であるにも関わらず、多くの学生は学級経営について十分に学ぶこともないまま、教壇に立っていると思われる。

赤坂真二氏（上越教育大学教職大学院）は言う。

「教員養成系の大学に身を置く立場として挙げたいのは、大学の教員養成カリキュラムの問題である。河村茂雄（2010）は、『大学の学部教育の教員養成課程で、学級経営に関する独立した科目はほとんどないのが現状である』と指摘する。教育相談や生徒指導という切り口で学級経営に触れることがあっても、学級経営を真正面から取り上げられることは希である」[*1]

筆者は、教職大学院で、「学級経営ワークショップ」「学級経営実践演習」という2つの授業を担当している。しかし、大学院生の現状を考えた時、これらの授業だけでは学ぶことのできないより具体的で日常的な学級経営の現状を学ぶことが必要であると考え、「学級通信分析で学ぶ学級経営」というゼミを行うことにした。

2 学級通信を提供する教師

指導力のある教師の発行する学級通信には、その教師の教育観を反映した実践が具体的に記述されている。学生に学級通信の分析を行わせることで、指導力のある教師の学級経営を自ら学び取ることができるようになる。

ゼミで活用する学級通信は、筆者と以前から研究会等をとおして交流のある指導力のある教師に提供してもらっている。発行と同時に、メールで送付してもらうのである。

2012年度に学級通信を提供してもらっている教師の年代は、20代、30代、40代、50代、担当している学年は、小学校2年生、3年生、5年生、6年生、特別支援学級、中学校2年生、勤務している地域は、宮崎県、東京都、群馬県、愛知県である。

3 ゼミのシステム

ゼミのシステムは、以下のとおりである。

① 分析する学級通信を配付する
② 様式に従って分析し、レポートを書く
③ レポートを検討する

ゼミを実施するにあたって、学生に次のような手引きを配付した。

Ⅰ 学級通信とは

なぜ教師は、学級通信を書くのだろうか。

公的に発行することを求められているわけではない。しかし、多くの教師が、学級通信を発行する。多忙な業務の合間を縫って発行される学級通信に、教師はさま

ざまな思いを込めている。
特に、すぐれた教師の学級通信には、数多くの学級づくりのポイントが散りばめられている。それらのポイントをリアルタイムで学んでいこうというのが、このゼミの目的である。
それぞれの学級通信が、この一年間、どのように展開していくのか、書いている教師自身にも予測がつかない。綴られるドラマを楽しみながら、学級づくりのポイントを学んでいきたい。

Ⅱ　レポートの構成

学級通信に綴られるちょっとした言葉にも、教師の思いが込められている。そこに、学級づくりのポイントが隠されていることも多い。それらを敏感に感じ取るためには、まずは何度も読み込むことである。
なぜこんな表現をしたのか、なぜこのような活動を仕組んだのか、なぜこの子の発言を取り上げたのか…。
一つ一つの言葉にすべて意味がある（意味のない言葉を使う教師の学級通信は読むに値しない）。それらの言葉の意味を、自分なりに解釈しよう。学ぶとはそういうことである。
そこで、毎回ゼミの最後に配付される学級通信を充分に読み込み、次回のゼミまでに、以下の構成でレポートを作成することにしたい。

1　学級づくりのポイント（基本的に3点挙げて記述する）
　①　見出しと解説
　②
　③
　※学級通信から見える学級づくりのポイントを3つ挙げて記述する。
2　追究する視点
　①　見出しと解説
　②
　③
　※「もっと知りたいこと」（どうしたらそうなるのかなど）
　※「よくわからなかったこと」（教師の意図など）を記述する。
3　比較しての考察
　①　見出しと解説
　②
　③
　※複数の学級通信が提示された場合、比較して考えたことを記述する。
4　その他感想など
　※1～3で書けなかった感想等を自由に記述する。
　※レポートは、ゼミで簡潔に発表し、協議をとおして学級づくりのポイントを学び合う。

4　学級通信分析のモデル

学級通信を分析させるにあたって、分析方法のモデルを示すことにした。何をどのように分析すればよいかが理解できていなければ、学級通信から学級経営を学ぶことができないからである。
そこで、「学級経営ワークショップ」の授業の一コマで、以下に示す学級通信（K教諭『2こ2こ2の4学級だより』2011年4月7日発行）を例にして、分析の方法を指導した。

◇ご挨拶
はじめまして、K（ひらがなの読み）です。今日から一年間、皆様の大切なお子様を受け持つことになりました。どうぞよろしくお願い致します。
私はT小に来て4年目になります。
これまで本校では、3年生を2回、5年生を1回受け持ちました。2年生を受け持つのは28年の教師生活で3回目です。3回目と言っても15年ぶりになります。15年前に受け持った2年生の子ども達はすっかり大きくなって、自分の赤ちゃんの写メなどを私に送ってきたりしています。
2年生というと小学校6年間の中で一番素直で楽しい学年というイメージがあります。
子ども達から元気をたくさんもらえそうな一年になりそうで今から心弾んでおります。
どうぞよろしくお願いします。
以下、私の簡単な自己紹介です。
□　三谷幸喜似（子ども達には松潤と言わせてます）
　※三谷幸喜の写真は省略
□　趣味　B級グルメ探訪、高校野球観戦、読書
□　特技　一輪車、マジック、野球、でかいクシャミ
□　マイブーム　タイ古式マッサージ
□　酒量　生ビール1杯でほろ酔い
□　家族　妻、柴犬（太郎、7歳）
□　好きなテレビ番組　がっちりマンデー、リアルスコープ
□　今の悩み　メタボには見えない（身長174cm　体重68kg）けどメタボなこと
□　尊敬する人物　坂本龍馬（昨年度は、「龍馬伝」があり幸せでした）
□　最高の思い出　ワールドカップ「メキシコ×イタリア戦」（於大分ビッグアイ）観戦
□　担任歴　M小　4年→6年→6年　→5年→4年、K小　4年→6年　→2年→1年、U小　4･5年複式　→5･6年複式→3･4年複式　K小　2年→3年算数と社会専科3年間→4年　→4年→4年、T小　4年→不登校対策カウンセラー2年間→3年→5年
□　履歴（省略）
□　バイト歴（省略）

K教諭が、2年4組を担任して最初に発行した学級通信である。この学級通信を分析することで、年度当初の学級経営について、さまざまなことが学べる。
学びを深いものにするためには、分析の方法が重要となる。そこで、分析する時の重要な視点として、次の2点を示した。

視点1　意図を読み取る
視点2　効果を推測する

この視点をもとにした分析の具体例を以下に示す。
冒頭の挨拶の中に、次の表現がある。
「15年前に受け持った2年生の子ども達はすっかり大きくなって、自分の赤ちゃんの写メなどを私に送ってきたりしています」

さりげない表現であるが、ここから、15年前の教え子との絆の深さが読み取れる(意図の読み取り)。これを読んだ保護者の担任に対する信頼感、期待感は大きくなると考えられる（効果の推測)。

紙面の半分ほどを占める自己紹介も目を引く。

この自己紹介には、次のような特徴がある。

① 有名人（三谷幸喜）の写真の活用
② 趣味・特技等の個人的な情報の公開
③ 経歴の詳細な公開

実際の学級通信では、自分のことを「三谷幸喜似」と表現し、写真を掲載しているが、その写真が三谷幸喜なのである。三谷幸喜の顔写真はかなり目を引く。

普通の教師は、自分の写真を載せることはあっても、有名人の写真を使うことは、ほとんどないだろう。しかし、K教諭は、「三谷幸喜似」という言葉とともに、三谷幸喜の写真を掲載した。

これによってどのような効果が生まれるか想像できる。学級通信を見た保護者は、子どもに次のように問いかけるはずである。

「K先生って、こんな顔なの？」

子どもは喜んで答える。

「そっくりだよ！」

学級通信をもとに、家庭で学級担任のことが話題に上ることになるだろう(意図の読み取り)。この写真を活用したことによって、保護者と子どもの学級担任に対する親近感は一気に高まったと思われる（効果の推測)。

趣味、特技、バイト歴（本稿では省略）等の個人的情報の公開にも、K教諭独特のユーモアが散りばめられている。例えば、次のような記述である

「特技　でかいクシャミ」

「好きなテレビ番組　がっちりマンデー」

保護者や子どもにとって、教師の意外な面を感じさせるような個人的情報を開示している（意図の読み取り)。これによって、保護者は、教師に対してさらに親近感を高めることだろう（効果の推測)。

履歴の詳細な公開（本稿では省略）も、大きな効果を生むと考えられる。いろいろな学校で、さまざまな学年を受け持ってきたことがわかれば、このようなベテランの先生なら安心だ、という信頼感につながるのである（効果の推測)。

新しい担任が決まって、子どもが持ち帰る学級通信は、通常の学級通信よりも多くの保護者から興味深く読まれるにちがいない。このことを効果的に活用することによって、学級担任に対する好感度は、かなり高くなるはずである。

以上のようにK教諭の学級通信第1号を分析することで、年度当初における学級経営の重要な視点を学ぶことができる。

それは、「年度当初の学級経営では、信頼感、親近感、期待感を高める工夫を行うことが大切である」ということである。この3点を意識することによって、子どもや保護者の信頼を得られ、スムーズな学級経営をスタートさせることができると思われる。

このような分析のモデルを示すことによって、学生は、学級通信分析が学級経営を学ぶのに有効であることを実感する。

5　一つのテーマで複数の学級通信の提示

学級通信を分析させる時のポイントの一つは、一つのテーマで複数の教師の学級通信を分析させるということである。ただし、学級通信を配付する時点では、テーマについては、何も示さない。複数の学級通信を読んで、自分で共通するテーマを考えるのである。

これまで取り上げてきた主なテーマは、次のとおりである。

① 出会い
② 始業式
③ ほめて伸ばす
④ 授業づくり
⑤ 生活習慣
⑥ 学習習慣
⑦ 家庭訪問
⑧ 休み時間
⑨ 修学旅行
⑩ そうじ指導
⑪ 運動会
⑫ 卒業式

同じテーマで複数の学級通信を分析させるのは、同じテーマでも、目の前の子どもの状況や教師の教育観によって、さまざまな学級経営の方法があるということに気づかせるためである。

「ほめて伸ばす」のテーマで分析を行った時には、次の3つの学級通信を提示した。

N教諭『学級通信SPECIAL』№6（2012年4月11日発行）より

6年生の光るもの

新学期が始まって3日目。

6年生の光るものがたくさん見えてきました。

○　きちんと提出物を出すことができる
○　きちんと掃除をすることができる
○　言われなくても、次の行動をとることができる
○　自主的に朝のボランティアに取り組むことができる
○　忘れ物が少ない（今のところない）
○　きちんと自学をすることができる
○　整理整頓をすることができる
○　てきぱきと給食の配膳をすることができる

6年生としてのスタートとして申し分ない状況です。本当にすばらしいと思います。

そして、ここ3日間でさらに伸びてきたことがあります。特に伸びてきたのは「声の大きさ」です。その中でも「あいさつの声」「返事の声」がとてもよくなってきました。

子どもたちの伸びを支えているのが、子どもたちの「やる気」です。子どもたちからは、新学期を迎えて、「がんばろう。」「成長しよう。」「さらに自分を変えよう。」という気持ちが全面に出てきています。「やる気」は、すべての活動を支える根っこになると考えます。この根っこを1年間、大切に育てていきたいものです。

根っこを大切に育て、子どもたちの持っている力をたくさん光らすことができればと思っています。

T教諭『学級通信ごっつ』№8（2012年4月16日発行）より

一週目が過ぎて

みんなのよいところをたくさん見つけることができた1週間でした。

① 自分から進んでがんばろうとすることができる

係活動決めでは、自分から「これをやりたい」というものをもつことができていました。学級役員や児童会を決めた時には、自分から立候補する人も出てきました。5年2組での1年間に対する思いの強さ･深さを感じました。

② 協力・思いやりの心が育っている

掃除や給食では協力して、仕事に取り組むことができています。授業参観ではグループでの活動がありました。その中でも意見を出し合うことができました。放課には友だちとそれぞれ過ごすことができています。

③ けじめをつけることができる

学年集会や全校集会では、話を聞く時には姿勢をよくして集中することができています。「楽しむ時は楽しむ。けれども、ちゃんとやるとき　はちゃんとやる」…5年2組で大切にしたいと考えているものです。みんなが今の段階でできていることが、すばらしいです。

④ 自分たちで「もっとよくしよう」という思いが行動に出ている

授業やスピーチで自分から挙手をして発言できる人が増えてきています。自分から勇気をもって取り組む姿に感動しています。また、「5年2組で大切にしていきたいもの」を書き出したときにも「全力」「思いやり」といったキーワードが出ています。これらの良さを「出し続ける」ことが大切です。

さて、2週目。いろいろな姿を出してくると思います。「ちょっと手をぬいてもいいや」と思うこともあるかも知れません。そんな時こそ、1週目の思い・気持ちをふり返られるといいですね。

S教諭『学級通信Happiness』第2号（2012年4月9日発行）より

出会いで素晴らしいと思ったこと

金曜日が、三組のみんなと私との出会いの日でした。素晴らしいと思ったことがありました。

① 「はいどうぞ。」「ありがとう。」

プリントなどを後ろに回していく時に、何も言わないでいるより、一言あった方がいいと思います。私が「はいどうぞ」と言って子どもにプリントを渡したら、「ありがとうございます」と言う子がいました。こんな風に配るといいね、と言うと、すぐにどの子もできるようになりました。

「言われたことをしようとできる人は『心のコップ』が上向きだね。『心のコップ』が上向きな人は、教えてもらったことが、すっかり心に入るから、どんどん成長するんだよ。『心のコップ』が下向きだと、何も心には入らないから、成長できない。『心のコップ』が上向きな人の事を『素直』と言います。みんなは素直だね。」

と言いました。

② すすんで働く

・ 教科書を家庭科室から持ってくる。
・ 私の荷物を隣の教室から持ってくる。

金曜日は早速、二つの働く場面がありました。「うれしそうに」働いていました。そんな子どもたちを見て私もうれしくなりました。

③ 優しさ

保健室で休んでいた友達の分も、教室移動でもってきてくれた子がいました。気が付いてくれる優しさ、持ってきてくれる優しさが、うれしかったです。

④ どんな六年生になりたいか

「どんな六年生になりたいか」と聞きました。どの子も自分の考えを決めて、手を挙げることができました。素晴らしいと思います。

A君（教職大学院1年）は、この3つの学級通信から、「学級づくりのポイント」の一点目として、次のような分析をしてきた。

① 子どもの良いところを発信する

今回の通信にはどれも子どもの良いところが書かれている。S先生の「Happiness」では「素晴らしい」、N先生の「SPECIAL」では「光る」、T先生の「ごっつ」では「よいところ」と表現して、子どもたちの様子をほめている。

特にS先生の通信では、子どもたちの会話や行動を記載することで、学校で子どもたちはどのような様子なのか通信を通して発信している。またプリントを後ろに回す時のように、具体的な場面を例に挙げて「こんな風に配るといいね」とコメントしている。

子どもたちの良いところ探しが、子どもを育てていく上で大切であると感じた。そして、そのためには教師が子どもをよく見て、「この子の行動をみんなに広めたいな」と日ごろから意識することが、良いところ探しの第一歩になると考える。

3つの学級通信を比較することによって、子どもをほめる言葉も「素晴らしい」「光る」「よいところ」と表現の仕方がちがうことに気づいている。学級通信への記述の仕方についても、会話や行動を具体的に書くことのよさを感じている。そして、「教師が子どもをよく見て、『この子の行動をみんなに広めたいな』と日ごろから意識することが、良いところ探しの第一歩になると考える」という自分なりの結論を導き出している。

学級通信を分析することには、学級経営の重要な視点を自分自身で発見する効果があることがわかる。

6　1学期の学級通信の分析

学期の終わりには、一人の教師の学級通信をまとめて分析させる。そうすることによって、学期の始まりから終わりまで、教師がどのような教育活動をどのような意図をもって行い、子どもがどのように育っていくのかが見えてくる。

1学期分の学級通信を分析させるにあたって、次のような手引きを配付した。

学級通信から学ぶ学級経営のポイント
～1学期編～

1　課題

1学期の学級通信を分析し、4月から7月の学級経営のポイントをまとめる。

2　レポート作成上の留意点

①　前期のゼミのレポートや検討した内容等も参考にしながら、一人の教師の学級経営について深く分析してまとめること。

②　まとめ方としては、「○月の学級経営」という形で、時系列でまとめる方法と、「授業づくり」「生活指導」「行事の活用」などの視点ごとにまとめる方法が考えられる。この他のまとめ方を工夫してもよい。

③　分析する部分の引用は、「○号」「○月○日号」と明確に記すこと。

④　担当した教師と意見交換した内容もレポートに反映させること。

⑤　枚数は、A4判10枚程度。制限を無視して、書きたいだけ書いてもよい。

⑥　レポートの形式について

・　余白は、20ミリとする（綴じた後、見やすいように）。

・　文字の大きさは、10.5ポイント、45字×45行を原則とする。

3　メールによる意見交換

①　担当した教師とメールで意見交換を行い、考察の深化に生かすこと。

②　最低限3回以上の意見交換を行うこと

③　意見交換の視点（これ以外の視点も考えられるので各自工夫する）

・　疑問点の提示と疑問点に対する意見交換

・　学級通信の解釈の仕方についての意見交換

・　学級通信からだけではとらえにくい学級経営の具体的な方策の探求

・　その他、学級経営全般にわたる意見交換等

4　メールアドレス（省略）

5　レポートの活用

①　レポートは、「学級通信に学ぶ学級経営の基礎・基本」として製本する

②　製本したレポートは、お礼として上記の教師に送付する。

③　まとめられたレポートを後期のゼミで一人ずつ発表し（15分程度）検討する。

手引きに「メールによる意見交換」という項目がある。学級通信を分析する作業の中で出てきた疑問点等を、直接意見交換させることで、より深く学級経営のポイントを学ぶことができると考えたからである。

Ｂ君（教職大学院１年）とＮ教諭のメールのやりとりは、次のようであった。

【Ｂ君からの質問】

学級通信を読ませていただき、転入生の児童を学校やクラスに馴染ませてあげることが学級の一番最初の課題だと考えました。転入生の子を早く学級に馴染ませる工夫や何か取り組んだことがあれば教えていただきたいです。

Ｂ君の質問は、2012年4月9日に発行されたＮ教諭の学級通信で取り上げられていた次の記述がもとになっている。

うれしいことに、6年生に新しい仲間が増えました。Ｓ小学校から転入してきたＮさんです。とても明るく活発な女の子です。少女バレーにも所属しています。金曜日の昼休みにみんなで行ったドッジボールでも大活躍でした。Ｎさん、みんなと一緒に1年間、楽しい思い出を作りましょうね。

転入生の紹介の仕方にもいくつかの工夫点が見られるが、Ｂ君は、もっと深く考えを聞いてみたいと思ったのだろう。Ｎ教諭からの回答は次のとおりであった。

【Ｎ教諭の回答】

転入生の対応についてです。

1つ目は、「学級の子どもたちへ指導」です。自分が転入生だったらどのように対応してもらったらうれしいかを考えさせ行動させます。このことは、転入生に限ったことだけではなく、私の学級経営のキーワードである「利他」につながります。

ちなみに、利他をされた転入生が学級の子どもたちのいいところを書いてきたら、それをすぐ紹介するようにしています。

2つ目は、担任が転入生と子どもたちとのパイプ役になることです。その子どもによりますが、転入生と担任とを結ぶ何かを早く築き、情報を得ます。

今年度は、振り返りジャーナルをチャンネルの1つとして活用しています。担任は、転入生の情報を活用して、他の子どもたちとのパイプ役になるようにしています。

「そう言えば、○○さんってバレー部だったよね。」と子どもたちの中に入り、状況を見ながら転入生に話をふってあげます。

まだまだたくさんの方法はありますが、この２つは大切なことと考えています。

大切なことは「子ども同士の横のつながりを意識し

てつくってあげること」だと思います。そして、居場所を確保してあげることと考えています。

Ｂ君の質問に、かなり具体的に回答していることがわかる。メールで意見交換をしたからこそ、Ｂ君は、より深い学級経営の方法について学ぶことができたのである。

Ｂ君とＮ教諭は、次のような意見交換もしている。

【Ｂ君の質問】

少し気になったのが3日間の短期目標を達成し短冊に花を付けた後も子どもたちは継続して短期目標の行動を行うことができているのかなということです。

もし、その3日間だけの行動になってしまった時の対応はどうされますか。僕ならこそっと花を取ってしまうかもしれないなぁ～と考えてます。(笑)

また、子どもたちの自己評価なので客観的なＮ先生から見て目標行動ができていない時に目標達成されたということはありませんか？

この質問は、2012年4月10日に発行された学級通信を読んだところから生まれている。

> 学級目標が決まった後、子どもたちは「短期目標」を考えました。
> 短期目標とは、「呼ばれたらすぐに返事をする」「ありがとうが言える」「伝わる声ではいっと返事をする」など学級目標を具体化したものです。子どもたちが書いた短期目標は、教室に掲示しています。
> 今後、週ごとに短期目標を選んで、達成したら花印を付けていこうと考えています。
> 小さな成功体験を積み重ねていくことで、自信をつけさせ、子どもたちの成長を促すことができればと考えています。

この質問に対してＮ教諭は次のように回答している。

【Ｎ教諭の回答】

短冊をつけた後の子どもたちのを様子ですが、Ｂさんが言われる通り、達成したことができなくなることもあります。そのような場合は、もう一度、同じ短期目標をつくって達成させます。それでもいまいちなときは、短期目標をさらに焦点化して目標を立てさせます。

矛盾した言い方ですが、目標達成は完璧をめざしながら、80パーセントをよしとします。子どもたちに少しずつ達成感を味わわせ、自分の学級に自信と誇りを持たせることが大切です。

私が子どもたちの自己評価に満足しない時は、子どもたちも自分たちがいまいちということを分かっています。そんな時、「これでいいの」と子どもたちに聞き返します。このようにタイミングを見て子どもたちに指導を入れていくことが必要です。

ここでもＮ教諭は、かなり具体的に回答しており、Ｂ君の学びが深まったであろうと思われる。

このような意見交換を経て、Ｂ君は以下のような構成で１学期の学級通信の分析をまとめた。

> 学級通信から学ぶ学級経営のポイント
> ～1学期編～
> はじめに
> 1. 学級づくり
> ① 卒業する理想の姿をイメージする
> ② 目標を行動に移す
> ③ 転入生の対応
> ④ 最初の1週間を意識する
> ⑤ 教室環境を整える
> ⑥ 幸せクローバー会議
> ⑦ ホワイトボードミーティング
> ⑧ 担任の教育観
> ⑨ 役割を与える
> ⑩ 振り返りジャーナルを活用する
> ⑪ ネーミング
> 2. 授業づくり
> ① 学ぶ習慣を付ける
> ② 目標の明確化
> ③ 少人数のメリットを生かす
> ④ 学習用語を定着させる
> ⑤ 教えることと考えさせることを区別する
> ⑥ 学ぶ意欲を駆り立てる
> 3. 保護者との連携
> ① 学級通信を活用する
> ② 授業参観を大切にする
> ③ 行事を活用する
> まとめ
> 参考資料

目次からだけでも、学級経営に関わるさまざまな視点を具体的に学んでいることがわかる。

特にメールで意見交換した「転入生の対応」については、かなり詳細な分析を行っている。

> **③ 転入生の対応**
> Ｍ小学校6年生になって新しく転入生が入ってきている。まずは、クラスの一員として、学校の一員として転入生を迎え入れ、馴染ませることが大切だと考える。転入生は今までの環境とは違うことに戸惑い、不安や心配が多い。だからこそ、1番最初の出会いを大切にしなければならない。第一印象が良ければ、転入生はすぐに馴染むことができるだろう。間違っても、転入生に「あまり学校に行きたくない」と思わせてはいけない。そのために、教師はさまざまな工夫を行わなければならない。
> Ｎ先生の学級では、転入生が入ってくる前に、学級の子どもたちへの指導が行われていた。もし、自分が転入生だったら、どのように対応されたら嬉しいかを考

えさせ行動させるといった指導が事前に行われていた。例えば、自分から話しかける、学校の案内を行う、遊びに誘うといったことが考えられる。もし、以前に他にも転入してきた子どもがいるならば、その時いったいどのような気持ちで、どのような事をされたら嬉しかったか、といったことを語らせることも効果があるだろう。このように事前に転入生をどのように受け入れるか、どのように環境をつくっていくことが望ましいかを考えさせることが大切である。教師が事前指導を行い考えさせるのと考えさせないのでは、子どもたちの意識や行動は大きく変わる。

転入生が子どもたちは自分がされたら嬉しいことを考えることはできる。しかし、なかなか考えたことを行動に移すことが難しい。そこで、思考から行動に移させる手立てとして2つ考えられる。

（Ⅰ）場面分けで考えさせる。

「転入生はなにをされたら嬉しいですか」と問うことも必要だが、更に詳しく、「クラスに入ってきた時どのような反応をされたら嬉しいですか」「給食の時はどうですか」と問う。このように漠然と考えさせることよりも具体的な場面を想定して考えさせる。場面に分けて考えておくことで思考と行動がより結びつきやすくなると考える。加えて、時間があるならば役割演技などを行うことで実感として子どもたちに考えさせることができる。

（Ⅱ）転入生の想いを伝える。

転入生がされて嬉しかったことや言葉、また学級の良い所やクラスメートの良い所を日記に書いてきたり、言ってきたりしたら子どもたちに伝える。転入生の想いを伝えることで、子どもたちは自分たちの行動を自覚して、さらに自信を持って行動に移すことができる。また、転入生の想いを伝えることで、子どもたちは、その子はなにをされたら喜び何をされたら悲しむのかを知ることができる。

上記の2つを行うことによって子どもたちが行動に移すことができると考える。

担任は転入生への配慮が必要である。学級通信「SPECIAL」H24年4月9日発行№3で転入生の紹介が行われている。そこでは始業式の日の昼休みにみんなでドッヂボールを行ったことが書かれている。教師の働きかけか、生徒の主体的な企画かは分からないが、学級レクを行うことによって転入生も打ち解けやすくなるだろう。また、転入生は学級通信に自分の紹介をされること自体が嬉しい。さらに、学級通信の最後には担任から転入生だけにむけたメッセージが書かれている。このメッセージからはとても温かさを感じられた。

N先生は意識的に転入生と子どもたちとのパイプ役になっておられる。転入生との信頼関係を早く築き情報を得る。そのために⑩振り返りジャーナルを活用している。ここで得た情報や、子どもたちの中に入り得た情報を活用して、状況をみながら転入生に話題を提供するといったことをしておられる。子どもたちをつなぐ役割に意識してなることが大切である。「子どもたちの横のつながりを意識的に作ってあげること」「転入生を孤独にさせず、居場所をつくる」これらは転入生に対する対応だけでなく、他の子どもたちにも同様に大切にしなければならないことである。

転入生が来ることによって、子どもたちは改めて相手の立場になって考えることやコミュニュケーションの力を育むことができる。今まで自分たちが育ってきた環境と違う環境に触れることで人としての成長にもつながる。良い機会として捉えることが必要である。

学級通信の分析が、具体的な質問を生み出し、N教諭から転入生への対応についてのポイントを引き出すことにつながっている。その結果、学級通信の分析がさらに深くなっていることがうかがえる。

B君は、最終的には、1学期の学級経営について、次のような知見を得るに至っている。

強く感じたことは、「最初の一週間が勝負である」ということである。「この先生についていけば大丈夫」と思わせることが大切である。また、きっかけを作ることを学んだ。子どもたちの人間関係を良くしていくための働きかけや、子どもたちが興味関心を惹くような話題提供、子どもをやる気にさせるような声かけによって、成長に導く。日頃からなにか成長させる工夫ができないか考え、いろいろな活動を実践していく。

個人の成長が集団の成長につながり、集団の成長が個人の成長につながる。つまり、集団と個人とは相互関係にあるので生徒にとって望ましい学級集団、学校集団をつくることが、一人ひとりの成長の促進につながる。1学期は学級の基盤や土台づくりである。教えることはていねいに教えることで2学期や3学期の子どもたちの「挑戦」にむけての力を付けさせる時期である。

学級通信でN先生の取り組みを知り、自分にできる実践をていねいに、継続して行うことが自分の力を高めると感じた。学校サポーターでもこの学びを生かして、1日1日大切にしていきたい。

7　学級通信を書く

K教諭の1学期の学級通信分析を担当したCさん（学部4年）は、K教諭の学級通信をまねて、次のような自己紹介の学級通信を作成した（本稿では、一部のみ掲載）。

□　名前 △・△（よみがな）
　小さい頃は“△”という名前が古臭く感じて、あまり好きではありませんでした。しかし、母に名前の由来を聞いてからは“△”でよかったと思い、とても気に入っています。
□　顔　高校のとき友達に「カピバラさんに似てるね」と言われました　※　カピバラの写真
□　趣味　バレーボールをすること・観ること、泳ぐこと、旅行、映画を見ること
□　好きな映画　アルマゲドン、魔女の宅急便、おおかみこどもの雨と雪
□　忘れられない景色　インドネシアにあるボロブドゥール寺院から見た自然
□　特技　トランペットが吹ける（金色のトランペットを持っています！）
□　苦手なこと　早起きすること

K教諭の学級通信の影響を受けている部分が、随所に見られる。特に「顔」の部分では、自分で撮影してきたカピバラの写真を掲載し、次のようなコメントを吹き出しでつけている。

「最近海遊館へ行って本物のカピバラに会ってきました！…似てる、のでしょうか？笑」

学級通信分析で、意図を読み取り、効果を推測したことによって、学級通信の書き方を学んでいることがうかがえる。

8　今後の研究の方向性

今後、解明していかなければならないのは、学級通信分析で学んだ学級経営を、学生自身が教師になったとき、どのように活用できるか、ということである。卒業生を追跡調査していくことにより、ゼミの効果を解明していきたい。

引用文献

*1 赤坂真二「教員を育てる大学にほとんどない『学級づくり』の授業」『教師のチカラ№005』2011年（日本標準）70頁

（2012年9月18日受理）